

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2019 年 1 月 24 日

所属：教育文化学部 学校教育課程 英語教育コース 4年

氏名：京谷佳凜

派遣先大学名（国）セントクラウド州立大学

在籍身分：交換留学

派遣期間：1年間

渡航年月日：2018年1月1日

帰国年月日：2018年12月28日

○派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	取得単位数
EAP 202 Reading and Writing II	春学期	4単位
TESL Methods: Reading/Writing	春学期	3単位
ESL and Culture	春学期	3単位
An Introduction to Testing for Language Teachers	春学期	3単位
Human Relations and Race	秋学期	3単位
Teaching ESL: Theories and Methods	秋学期	3単位
Code Switching	秋学期	3単位
Introduction to Women's Studies	秋学期	3単位

【以下について、様式任意 1,000字程度】

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

自分の専攻である英語教育に関する授業をメインに取りました。英語のテストや授業計画を自分で考えてつくる授業や、言語学や文化についての題材を読んでクラスメートとディスカッションする授業など、実践的なものが多く、とても為になりました。後期

には英語教育系の授業の他にも、フェミニズムと人種問題に関する授業も取りました。フェミニズムや人種問題、LGBT などに関する問題はアメリカで頻繁に議論されているトピックで、授業を通してそういった問題への理解を深められてよかったです。

この留学を通して、知識を得たことはもちろんですが、課題をこなす中でアカデミックな文章を英語で読んだり書いたりする力や、研究にアプローチする力が身につきました。自分は、将来の英語教育を担う存在になりたいと思っているので、今後はここで身につけた力を活用して、卒業研究やアメリカの大学院進学に向けての勉強に取り組みたいと思います。

○生活面について

生活面でもかなり充実していました。JP Network という日本人と日本に興味のある現地の学生が集まるクラブに所属し、後期には幹部のメンバーとしてイベントや毎週のミーティングの企画運営をしたり、カルチャークラスの運営をしたりしました。学校外でも、現地の小学校を訪ねて日本の文化を教えるプロジェクトを立ち上げ、活動しました。また、夏休みには学内にある児童所でボランティアとして働いていました。このような経験は、英語を使ってリーダーシップを取ったり、周りの人とコミュニケーションを取りながら働いたりする良い機会になったと思います。普段の生活では、友達と寮で一緒に料理をしたり、ゲームをしたり、楽しい思い出がたくさんあります。アメリカには本当に色々なひとがいるので文化や習慣の違いは人それぞれで、違い故にぶつかることも多々ありましたが、それを乗り越えて信頼関係を築いた友人たちは一生の宝物です。特にアメリカ人は議論することが好きで、何か思うことがあったらなんでも意見をぶつけ合います。最初はそれが少し怖かったですが、今では私も彼らと議論してたくさん言葉を交わすのが大好きになりました。

○その他留学全般にわたる感想

大変なことも少しありましたが、本当に周りの人々に恵まれて、振り返れば本当に楽しいことばかりの一年間でした。たくさんの人々と触れ合って、新しい文化や考えを知って、自分の世界を広げられたと思います。特に色々な物事に対して、今までは特に疑問も持たず、全てをなんとなく受け入れてきたのですが、権利や考えを強く主張するアメリカ人と触れ合ったことで、物事を批判的な視点を持って見れるようになりました。この留学を通して得た知識、新しい考え方や視点などを今後にも生かせたらと思います。

(様式 2)



Japan Night にて (本人前列真ん中)



友人とのひと時 (本人右から二番目)



パーティーにて（本人真ん中）

○渡航費補助について

渡航にあたり、秋田大学みらい創造基金からの寄付金をいただきました。素晴らしい留学生活を送れたのは資金を寄付してくださった方々の協力もあってのことです。ありがとうございました。

※報告書は、派遣先大学における授業等の履修状況を除き、国際交流センター刊行物（Web サイト含む）に公開を予定しております。